

Rooftop Model 1 取扱説明書

1. 安全に使用していただくために

- ・ サイドボディはセンターボディに確実に取り付けてください。
- ・ ストラップを使用する場合は、ストラップがギターに確実に固定されていることを確認してください。
- ・ 楽器のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
その際、弦の先端部分でけがをしないように注意してください。
- ・ 悪天候の屋外や湿度が特に高い場所での使用は、避けてください。接続するギターアンプなど外部機器の取扱説明書もお読みください。落雷による事故や火災、感電の原因となることがあります。

2. 製品の保証について

- ・ 保証期間は登録カード裏面の発行日より1年間です。
- ・ この期間内に製造上の原因によって製品に不具合が発生した場合は無償で修理、または新品と交換させていただきます。
無償修理するか新品交換するかの判断は、当社でさせていただきます。
- ・ 保証期間内でも以下の場合は有料とさせていただきます。
(1) 誤った使用、不適切な取り扱いや修理、改造による故障、損傷
(2) 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変、公害、塩害などによる故障、損傷
(3) 経時変化や酸化等による塗装面および金属面の自然な退色、変色
(4) 過剰な湿度や乾燥によって生じる故障、損傷
(5) 消耗部品の交換(弦、フレット等)

3. 返品について

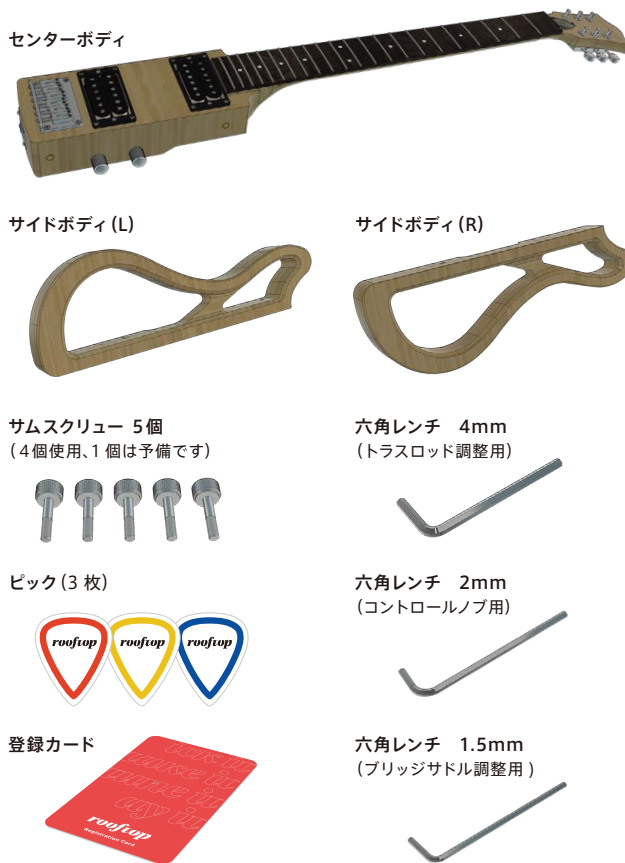
- ・ 製品に不具合が無くても、お買い上げ後1週間以内であれば、製品に傷や汚れ等の損傷がない場合に限って返品をお受けし、製品代金を全額払い戻しいたします。
- ・ 返品のための送料はお客様負担とさせていただきます。
- ・ 返品を希望される場合は、事前に当社ホームページの中の「お問い合わせ」のページからご一報ください。

4. この説明書は、当社ウェブサイトからもダウンロードできます。

ウェブサイトURL ▶ <https://www.rooftop-gw.jp>

5. 製品の内容

お使いになる前に次のものが入っていることをご確認ください。

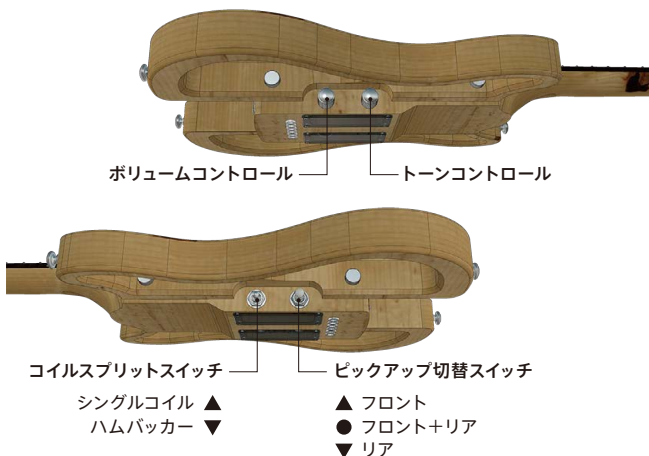


6. サイドボディの取り付け

下図のようにサムスクリュー4本でサイドボディをセンターボディに固定します。サムスクリューは指で締めてください。故障の原因となりますのでサムスクリューを工具などを使って締めることは避けてください。

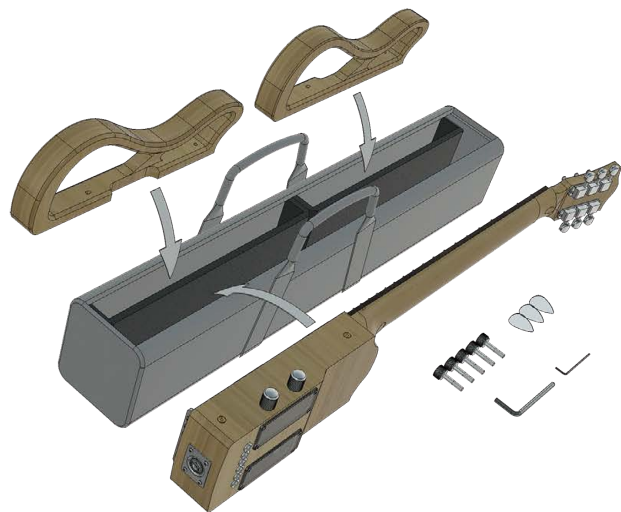


7. コントロールシステム



8. ギグバッグ(ケース)への収納方法

センターボディ、サイドボディは下図の通り収納してください。サムスクリュー、工具はケース内のポケットに収納できます。



Rooftop Model 1 調整方法

Model 1 の調整方法は、以下のように1～6の順で行います。

1. チューニング

まず、チューナー等を使って各弦を正しい音程にチューニングしてください。

2. ネックの反り調整

- 3弦または4弦を1フレットと最終フレットの2か所で押さえてください。
(カボを使うと楽にできます)
- その状態で9フレットの上面と弦との隙を見ます。
- この隙の基準は0.1mmですが、あまり厳密に考える必要はありません。
普通のコピー用紙の厚さくらいの隙間があればOKです。



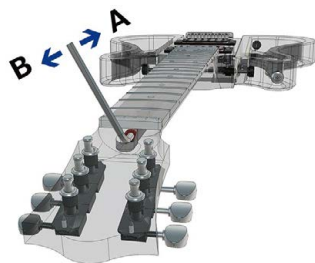
- トラスロッドの調整はトラスロッドカバーを外して行います。

隙間が大きすぎる場合

▶ ネックの順反りが大きいので、トラスロッドを下図A方向に締めます。

隙間が小さすぎる場合

▶ ネックが逆反り気味になっているので、トラスロッドを下図B方向に緩めます。



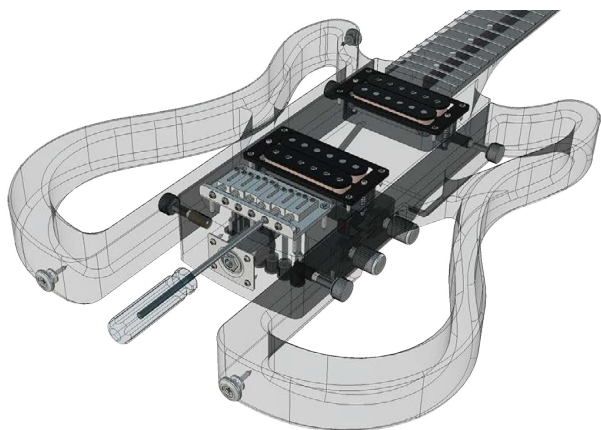
5. イントネーション調整

各弦がそれぞれのフレット位置で正しい音程となるように、ブリッジサドルの位置を調整するのがイントネーション調整です。

イントネーションが正しく調整されていないと、開放弦で音程が合っていない、コードの音がきれいにいなかったり、ハイポジションでの音程が合わなかったりするので、異なったゲージの弦を使用する時などは、イントネーション調整を行うことをお勧めします。

調整は各弦ごとに以下の手順で行います。

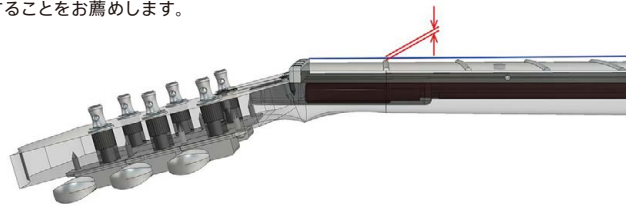
- 開放弦 (あるいは12フレット上のハーモニクス) で正しい音程にチューニングします。
- 12フレットを押さえた時の音程をチューナーで確認します。
12フレットを押さえた時の音が正しい音程より高い(シャープしている)場合
▶ ブリッジサドルを後方(上駒から遠くなる方向)に動かします。
12フレットを押さえた時の音が正しい音程より低い(フラットしている)場合
▶ ブリッジサドルを前方(上駒に近くなる方向)に動かします。
- 開放弦 (あるいは12フレット上のハーモニクス) の音程と12フレットを押さえた時の音程が合うまで、**1** **2**を繰り返します。



3. 弦高の調整 (上駒)

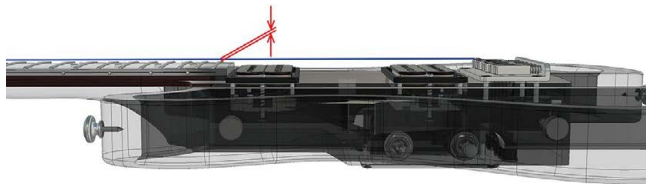
1フレットの上面と各弦との隙が0.5mm程度であれば正常です。

これより多少低くても、開放弦の音が詰まる等の問題がなければ大丈夫です。上駒の溝は音に影響する部分なので、調整が必要な場合は、経験のある人に依頼することをお勧めします。



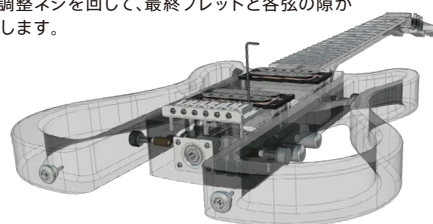
4. 弦高の調整 (ブリッジサドル)

- 最終フレットの上面と各弦との隙を測定します。



- ブリッジサドルの高さ調整ネジを回して、最終フレットと各弦の隙が以下になるように調整します。

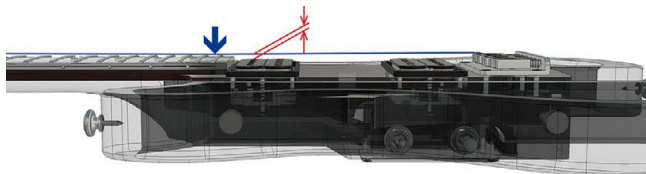
1弦	1.9mm
2弦	2.0mm
3弦	2.1mm
4弦	2.2mm
5弦	2.3mm
6弦	2.4mm



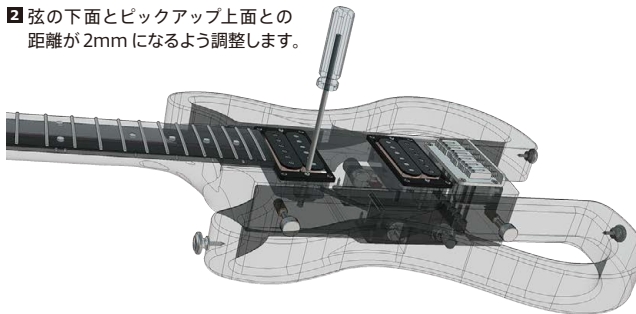
適当な定規が手元になければ、500円硬貨の厚さが2mmなのでそれを使う方法もあります。細かい数字を気にするよりも、音が詰まらない範囲で弾きやすく感じる高さに調整することをお勧めします。

6. ピックアップの高さ調整

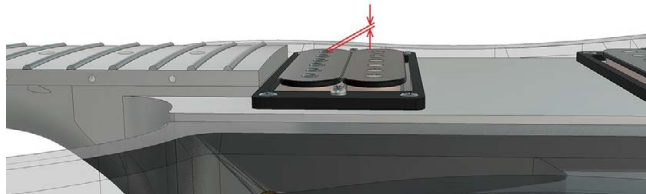
- 1弦、6弦を最終フレットで押さえ、弦の下面とピックアップ上面との距離を測ります。



- 弦の下面とピックアップ上面との距離が2mmになるよう調整します。



- ポールピースの高さが調整できる場合は、ポールピースの上面がピックアップの上面から0.5mmくらい出るように調整します。



ピックアップが弦に近いと、中低域がしっかり出て音の輪郭もはっきりするようになり、ピックアップが弦から遠いと、音像がややぼやけた、遠くで鳴っているような音になります。